

令和5年度 別府大学・別府大学短期大学部入学式 式辞

コロナ禍も漸く収束の兆しが見え、今日、別府市長長野恭紘様、後援会長梅林秀伍様はじめ多くのご来賓をお迎えし、4年振りにこのように盛大な入学式を挙行できますことは、喜ばしい限りでございます。ご臨席賜りましたご来賓の皆さまには、心より厚くお礼を申し上げます。

新入学生の皆さん、そして、これまでお子様方を支えてこられた保護者の方々、ご入学まことにおめでとうございます。本学は皆さんのご入学を心から歓迎いたしますとともに、長きにわたるコロナ禍の中、皆さんが本学を目指し勉学に精進してこられたことに深く敬意を表します。私たちは皆さんのご努力に報い、皆さんが有意義な学園生活を送られるよう、全力を尽くしてサポートすることをお約束します。

さて、別府大学は1950年に開学し、今年で73年目を迎え、4年遅れて開学した別府大学短期大学部は69年目を迎えます。現在、大学は3学部6学科、短期大学部は2学科を擁し、教養・専門・免許資格等の教育を通して、多くの有為な人材を社会に送り出しています。このような教育の基礎となる理念が、「真理は我らを自由にする」という建学の精神です。建学者佐藤義詮先生は、先の戦争で自由と真理がないがしろにされた歴史に鑑み、戦後、本学の門をたたいた若者にこの理念を説きました。この建学の精神は時代を超えた普遍性を有していますので、今日なお本学の教育を支える教育理念となっています。

ところで、この4年に及ぶ「コロナ禍」は、私たちの社会生活を大きく変えました。そして、いま世界を憂慮させている「ロシアのウクライナ侵攻」は、これまでの国際秩序を激しく動揺させています。このようなパラダイムシフトの時代にあって、私たちに求められるのは、真実を正確に見極め、将来を展望する洞察力と、信念に基づいて行動する逞しさです。皆さんには建学の精神に裏打ちされた本学の

教育のもとで、そのような力を培い、変化極まりないこれからの時代を生き抜いていただきたいと思います。

さて、大学での学びは、高校までの教科・科目による学習と異なり、学問分野ごとの授業で組み立てられています。学問分野は専門領域が多岐に分かれるため、ややもすると「大学では専門的で難しいことを学ぶ」といった印象をいただきがちです。しかし、その本質は、皆さんがこれまでに習得してきた知識や技能を体系化し、社会で生きて行くために必要な「ものの考え方」や「ものの見方」を学ぶことにほかなりません。これまでの学習を踏まえて、新たな学びに躊躇することなく、意欲的に取り組んでください。

私の好きな言葉に、「士別れて三日なれば、即ち刮目して相待すべし」という文言があります。皆さんよくご存じの『三国志』の一節で、蜀の豪傑関羽を討った呉の呂蒙の伝記に出てきます。これを現代風に訳すと、皆さん方のように「勉学を修めようとする若者は三日も会わないと、目をこすって見直すように、見違えるような成長をとげるものだ」といった意味になります。

大学の4年間あるいは短大の2年間は、勉学とキャンパスライフにもっぱら時を費やすことができる、人生唯一の機会です。真摯に学び、多くの学友と語り、たくさんの思い出を作ってください。皆さんは計り知れない可能性を秘めています。失敗を恐れず、その内なる可能性を大いに試し、伸ばしてください。私たちはそれを全力で支援します。4年後あるいは2年後、見違えるように成長した皆さんを目の当たりにすることを期待し、式辞といたします。

令和5年4月5日

別府大学・別府大学短期大学部学長 友永 植